

2023仙台市議選 立候補予定者 こども子育て政策に関するアンケート

回答者名【 猪又 隆広 】 立候補予定選挙区【 若林区 】

問1. 仙台市では、保育所の空き定員等を活用した未就園児の定期的な預かりモデル事業を行っていますが、どのように評価していますか。

こども家庭庁の動きに連動して本市でもこのモデル事業が実施していることを高く評価をしている。国が10分の9を補助することで、自治体負担が10分の1でいいことも追い風になっている。子どもが大好きでも、専業主婦や育児疲れを感じている保護者は多い。今後の課題は、現在5つの園で受け入れを行っている認識しているが、受け入れ園の拡充と、こういったモデル事業が行き届かない保護者にしっかりと情報が行き届き、本当に必要としている保護者へのアウトリーチの支援を拡充させていくことが必要だと考えている。

問2. 仙台市発達相談支援センター（アーチル）が、受付から相談対応まで最大4ヶ月かかることに対して、どのようにお考えですか。

発達に課題を抱えている子どもたちは着実に増えている。相談にあたる職員を増員しても抜本的な解決にはつながらない。現在の2館体制から中心部にも新たな支援センターを設置することも考えねばならない。一方で、もう少し地域の小さな単位で相談できる体制があってもいいのかもしれない。まずは初期相談、そこからアーチルに繋がっていけるような体制の整備も、急ぎ検討し現在のような相談の待ち時間を減らす取り組みを構築すべきと考える。

問3. 厚生労働省は、インクルージョンを推進していく上では、児童発達支援と幼稚園・保育所等との併行通園を推奨していくことが重要としています。どのようにお考えですか。

メリットとデメリットを考える必要があると思う。子どもにとっては2つの拠点があることは安心感が大きい、保護者にとっては先生への相談がしやすいことや同じ想いのママ友との関係性ができたりと良い側面は多い。一方で、仕事を毎週決まった曜日に休みを取ったりしなければならないということは大きい。そのため、職場にもこういった併行通園を理解してもらうこと、社会全体に理解してもらう必要があると思う。

問4. 仙台市には、障害のある子どもを保育園に預けたくても預けられず、就労を諦めている人が一定数おられます。この現状についてどうお考えですか。

改善する必要があると思う。園側の理解とともにしっかりと行政もサポートしていくことが必要である。障害の有無で、子どもの可能性をつぶしたり、保護者の働き方が選択できるようにすべきで

ある。

問5.仙台市の医療的ケア児の保育所受入れ人数は100万人当たり4.6人で、政令指定都市20都市中17位です。この現状についてどう思われますか。

受け入れ施設の拡充とケアをしているご家庭への支援、周囲の理解促進。仙台市独自の支援策を検討すべきである。

問6.その他、コメントあればお願いいたします。

子ども達のために、日本を変える
Florence